

昭和18年9月1日（水）

鶴市神社祭典。夕方空襲警報発令。本物の空襲ありし旨、謂ふ者あり。神社山鉾、多数太鼓笛にて賑やかに日の出町を通過す。空襲警報発令中とて神輿は日の出町限り。燈火を点せしめず、喧噪を許さず引揚げしむ。予定は貴島神社に休息の後、賑やかに販社の筈なりし。此日大鳥島に敵空母二艘に、飛機百六十機を以て、軍事施設を攻撃し来たり。十二機を撃墜せしめらる。

昭和18年9月2日（木）

切手類請求。一千六百円印紙も序でに請求す。警戒警報発令中。此の夜も燈火管制。局員紋平で出局。切手受取にも余行く。ミワさん坊を連れ魚市場に買物、序でに中津局に立寄らる。行違いに販局せり。晴天なるも秋の陽射しを見出す。唧々（しょくしょく）の宴聞き、次第に喧（かまびす）しくなる。皆湯浴みす。坊や余の湯浴みする時、再び湯浴みす。

昭和18年9月3日（金）

午後零時30分警報解除。ミワさん金手に列取りに行かる。二時間を要す。昨、神輿貴島神社に来るとかにて、午後5時過ぎ同神社に至り、之を待受けらるるも遂に見えず。其の儘販らる。

昭和18年9月4日（土）

切手、就中葉書800、封緘往復各400請求。昨夕、理髪裏に行きたるに妻女のみ。更に何日も行く。家に赴きたるに他に待ち人あり。仍って駅前四角に至る。子供数人あり。然るにこれは遊びに来て居りし者らしく、殆ど待

合いなしに余の番となる35。此日午前10時30分、中津局打合会に出席す。鶴居、大貞加わり東吉富を除く。一つ松遂に不見。警察署長、同経済関係、市役所貯蓄係等六名の来賓あり。内輪は10時30分より、来賓は11時より集合。部内者は招待する側との観念を以て、意思の疎通を図ることに力められたき旨の挨拶あり。貯蓄奨励に付いては、これぞと云ふ目途発見されざりしも、署長名を借りて、特定の向きに勧奨を試むることに同意を得たる位が山であったと思ふ。昼飯、鮓と梨三ヶづつ。来賓には土産あり。午後2時散会。余は何も食べざりし。其の儘措いて販る。葉書四千、封緘往復各四百を持来る。其の前ミワさん、葉書四千と切手類を持販らる。午後7時30分より班長会議に列席。10時販る。

昭和18年9月5日（日）

午前7時より公園地に至る。高女生徒、神域の洒掃に力め販るのと余等が行くのと同時なりし。猿に例の黒パンを与ふ。大分黴が生え居り、猿公も食わぬものさえあり。坊や往復とも歩く。中殿三丁目井上茂吉と称する者、7月14日其の子百合嬢の論功行賞に、叙勲並びに三百円の賜金ありて、其の辞令書及び賜金請求書を小包に付託したるものなる由。該小包は別府神戸間浦戸丸に搭載したる処、事故の為遭難沈没し、該郵便物も其の厄に罹（か）かりしものと特定さるる旨を以て、其の証明書及び辞令書及び賜金請求書の再交付を出願。余、案文手交せり。午後7時30分、隣組常会ミワさん坊や連れ行かる。途中坊や睡くなつたらしいとて連れ戻らる。余坊やを劬（つか）はり共に寢床。町内会長さん来宅。小切手の外、豆債券19枚にて国債債券割当額支払いを完了さる。

昭和18年9月6日（月）

前田さん、母堂の実母の訃音を聞き休暇を請はる。昨日一昨日、場合に依りては本日まで。然るに此日出勤さる。夕方降雨。傘を局員に配付す。証券の全員、豊田町銀行出張所にて受領し来らる。朝の間、竹折主事久保主任共、在局を認めたるに、午後電話せしときは両氏共不在。それでも債券代金はミワさんに持来せしむ。安藤氏昼食にて、20分待ちたるも下りて来たらず。待つ身のつらさを痛感して飯宅。余負ふも、其の儘持ち帰らる。坊同行。夕食うどん。

昭和18年9月7日（火）

此朝うどん残、余平らぐ。但し多少酸味を帯ぶ。煮直して貰ふ。午前3時前後より降雨。黎明歇むも掃除せず。午後坊やを摩擦の目的にて、馬穴に水を満たし階段下に置きたるに、坊や早く馬穴に入り水を溢（いつ）し残りを悉く撒く。洪水の状態を見て快哉を叫ぶ。余をして後始末に閉口せしむ。幾度か雑巾絞りに流しに立つ。簀（す）、水に濡れ滑りて両脚をとられ、引きかつ筋切れしやと思はる。夕食南瓜（巖方より贈られし物）、小豆（澄子持参、上田谷地土産）、メリケン粉団子を頂く。南瓜思ったより不味。食事終わる頃、西野氏よりのタドン十俵到着。裏に運ばしめ50銭やる。森田さん一俵とらる。道子より葉書。米不足。うどん、うどん粉の配給、米より多しと。黒絲送付方申越す。明日、余出勤方ミワさんより依頼。

昭和18年9月8日（水）

午前5時警報発令。7時空襲警報。余出勤30分にして帰

宅。切手類請求の為、ゲートルの儘出掛く。此日、余の誕生日に相当。ミワさん鰻蒲焼き、林より求めらる。午後6時と云ふたが7時に空襲警報あり。余出動。水かけ梯子上り練習。午後8時30分解除。此の間、林の小父さんと表で嘸す。他の連中は上本氏店先にて話す。8時50分頃警戒警報解除。切手類受取に余出掛け、ミワさん坊を連れ余の後を追ふ。販りは反対路を取りたるが仇となり、お互いに食違ふて不遇。葉書八千、遂に持込む。此日福岡行き決定。

昭和18年9月9日（木）

頃日の天気毎日変わりなく、同一軌道を往復しあり。午後3時頃降雨。1時間前後にて一時大抵は歇む。昨は僅少なりしも、此日は夜に入り衰えず。向いの秀雄氏来たり。坊と掾側事務室間を駈廻る。小麦粉配給、六七舛三円余。ミワさん外出毎に坊、跟いて行く。坊髪つみに岩尾さんに行つて貰ふ。丸坊主にせず髪を伸ばしたる儘、後ろを剃上ぐ。頗る大人しく、販りは「ありがとう」と挨拶したる由。

昭和18年9月10日（金）

朝、水溜まり両側のみ。街路掃除。切手の外、9時過ぎ穴瀬より百円印紙一枚要求。臨時出して貰ふ。ミワさん払込及び受取（待つて居る間に出して呉る）来らる。資金請求にも行かる。但し最初の払込は余行く。3時、下郷局長、貯金350円即時払い要求す。当務者前田員、局長と知らず拒絶す。ミワさん下郷局長と知り、呼びに行つて連れ販り、渡す段になり、印持参せず。汗を拭きつつ捜す。余、見かねて立替やる態度に、常軌を逸する点

あり。後より心配になり、下郷を呼び出し代理に話す。

昭和18年9月11日（土）

此日より9月18日迄、8日間記載なし。

昭和18年9月19日（日）

朝来降雨。澄子に負われて、坊や岩田屋まで行く。久子も買物がてら跟いて行く。ブランコ注文、道子より十円立替貰ふ。午前中幾分小降りとなる。剃刀研ぐ。午後1時過ぎ澄子販り、ブランコは木製にて庭の中に建設せらるるもの。十七円と称す。梁に綱を引掛けるものは持合わせなき由。中津行き切符は求め来る2, 55。時刻表売切れ。連絡のよき、午後4時後発車のものを調べて貰ふ。6時20分博多発は、小倉で15分の待合わせに不遇と。それに乗ることにして、道路泥濘の嫌いあり。箕島駅より乗込むこととし、時刻を道子に調べて貰ふ。坊やを負ふて出掛く。午後4時46分発にて出発のこととせり。3時過ぎ、うどんにて夕食済ます。坊やは三ッ谷より土産に貰ふた色の白き米を軟らかに炊き、可成り絶食せしむる様にし、之を与ふ。不思議に此の日に限り、大便一回朝赴きたる儘、小便も5時近く催させたるまま、小倉まで敢えてせず。而して博多駅まで道子澄子送り呉れ、パンを土産に、外に南瓜会津産一、農事試験所一、小豆を二三升貰ふ。太鼓と戦車とひまし油小瓶一など、荷物は相当の重さを致す。博多駅にて大分待つ。十余分遅れて到着。加之、超満員。折尾まで立ち続けるつもりで乗込む。軍人さんが席を譲って呉れたり。よいことにして何時までも平気で居られべくもなし。折尾にて一旦降ろした坊を負ふて、軍人さんに掛けて貰ふ。黒崎近くにて途中より乗

込みたる軍人さんが立ち、黒崎にて降りるつもりらし。余に空席に掛けよと云ふ。仍って其の席に掛けたり。小倉に着したるは、定時より十七八分遅れ。日豊線行き下り列車は、之を待合わさずして発車したるらし。次の列車は10時半、約二時間待合わすこととなる。雨は豪雨と変じ、物凄き勢いにて降る。二時間待合わす間、坊や小便すると謂はず。臈（やが）て10時半発車の列車は、30分遅れにて着。11時発、今度は幸に空席あり。便所の近くに席を占め、坊やに小用さす。小倉待合い中、貨車の入れ換えに、汽笛を突然鳴らす音に安眠を妨げられ、びくびく痙攣様の衝激を受く。午前零時20分頃到着。雨は依然として降り、家まで辿るに大分濡れたり。数回叫びて起きて貰ふ。

昭和18年9月20日（月）

雨毫も不歇。益々猛威を加ふ如し。8時46分に羅漢寺行き50求め、駅に至る。栄町長既に居らる。徽章附けるを忘れ、ミワさんにと取寄せて貰ふ。大分暇どり、之を請けて出札したるも、此時発車の鈴響く。驀進中を下部に足を掛けたるも、踏み台の設備なき為、足を滑らし投げ出さる。左手小指まで三本に負傷す。臈（やが）て待合室に引上ぐ。豊後町長あり。一緒に9時の列車を待つ。女生徒学校より開放されしも、今津以遠不通の報に思案の態なる。数十の集団中より、余の負傷の姿を見て繃帯を巻き呉る。次の汽車にて発車したるも真坂にて立往生。洞門内故障、数時間を要すと。夫れも二三十分間にして、中津に引返すこととなる。豊後町長自宅付近、川筋堤防決潰により溢水汪洋。心許なく飯宅のこととなり余のみ引返す。徒歩にて目的地まで強行する連中もありて、稍半

数近くとなる。11時過ぎ到着。然るに雨は毫も衰ひず。道路上二三寸の深さとなり急湍（きゅうたん）、林家との間の小径は忽ち小川と化す。少時して水は床下に滔々侵入。勝手は三四寸の深さに達す。夜に至り漸く衰へたり。此の日風冷、寧ろ寒さを感じず。岩尾さん出勤せず。

昭和18年9月21日（火）

昨夜風猛し。次第に積雲を払ひ、夜半月爽やかなり。道路は小石露出し、泥を流して小綺麗となる。6時過ぎより掃除し、7時より室内の掃除に移る。昨洪水に危惧せし岩尾さん出勤す。晴天。蛭子町函場より印紙5千円請求。余代金納付、受領はミワさん。十七銀行に持行かる。同行員山本（函場の息子）が幾らか献金させられて、同行の御用を達して居る如し。此日本線は今津止まり。耶馬溪線は全線に涉り不通の俣。

昭和18年9月22日（水）

秋晴れの爽やかな気候となる。朝の間は寒いので、ズボン下はネルのを取り出し使用。切手請求。代金納付受領共、余行く。坊や「ホンコク」に自分も行くとして承知せず。ミワさん、角野さんの附近に用達しに行かる後を追ふて至り、一緒に京町を通過して、途中玩具屋にブランコを求めんとす。生憎品切れ。ミワさん切手類を、余資金二千余円を受取る。坊「ここに居るよ」と喜ぶ。捜したと見ゆ。再び一緒に販り、途中より余抱えて販る。神様祭祀、坊昼寝の間に詣ぜらる。栄町長此日販局。夕食後、坊を連れ再度神詣でさる。昨夜前田さんに連れられ同氏宅に。而して再び同氏に連れられて販る。腹加減、依然悪し。エキス毎日服用するも癒せず。

昭和18年9月23日（木）

晴れ。坊や敷き布団に失敬二回。24日の晴天を利し乾燥したるも、裏面未だし。切手類請求多し。栄町局長臨局。21日開通と同時に販りし由。昼寝せず。甘藷数本貰ひ来らる。

昭和18年9月24日（金）

秋季皇霊祭。豊田校運動会、珍しき快晴。八時半より、ミワさん坊を連れ運動会に行かる。余新聞を見て居る内、睡魔来たり冒す。一時間程横臥す。起きればミワさん販り来らる。次いで母堂を伴ひ神詣で、、、殿町局長応召。21日分休職となり、保証人代わって心得となる。其の心得臨局。栄町局にて照会方懇示す。二時間弱相手となり当惑せり。聞けば、栄町長は自分の子供の幼稚園生の手を牽き販るを見たりと。姉の葬儀に郷里に行きしものとせば、その後なるべし。終日好晴。夜も蒸暑し。

昭和18年9月25日（土）

柿坂にて一類事故防止座談会、明26日午前10時、国民学校にて開催。逡信局より出張員臨席の由にて、当局より二名出席斡旋す。なかなか埒明かず。栄町は二名出席の由にて、相呼応して漸く決定す。往復1, 50、二人にて三円渡す。午前中多少降雨あり。午後より恢復す。巻柿13本85づつ手に入れ、仙台小宮、東京今泉及び安武三名へ。仙台4本、東京各3本荷造り。11時近くまでかかりたり。道子の依頼に依る。此日も高温。坊や遂に午睡せず。

昭和18年9月26日（日）

曇天なるも雨に至らず。為替係両氏、颯爽として午前7時の列車にて出発。今朝中津局へ小包持来、差出さる。坊やも行き、公園地にて遊ぶ。5時頃より終に持切れず降雨となる。併し小降り。夕方少時、坊やとピンポン擲（な）げして遊ぶ。夕食後独りで睡る。為替の両氏、午後7時半雨を冒して帰宅。今日も殆ど毎小便時、大便す。昨夜及び今夜共、鱈（どじょう）汁。

昭和18年9月27日（月）

4時頃より降雨。朝歇みたるも、水溜まり各所に点在し路面湿潤、掃除休む。概して曇り勝ち。切手類請求葉書八千、ミワさん二千持来る。ズボン着用せずして中津局行き。山陽線不通、小包引受け停止の局報あり。電報も四国石見国へ至急受付となる。溝部槻（つき）木にも障碍。郵送色々取込み混雑を極め多忙。夜、切手10円欠損。多分請求の際の行違えと認む。敢えて尋ねても見ざりし。今日鯖（さば）及びアジ大量入荷。鮓に鯖を加え旨く食べる。此朝、道子に小包発送す。油揚げ蒲鉾多数入れてやる。甘藷配給あり。森田さん一貫目1,50の闇値にて求められたる由なるが、配給の分は一貫目36銭に過ぎず。夕方晴天となる。

昭和18年9月28日（火）

4時頃より降雨。南部小学運動会中止となる。朝掃除、取止む。後、曇り。午後漸く快晴。荒卷さん講習所入学企望を漏らす。米運搬し呉れず。余、受取に午後3時出掛く。ミワさん一部補助。

昭和18年9月29日（水）

曇りがちな日も晴れ模様。夜は漸く冷え、坊や尻を冷やし寝小便す。夫れを乾かしたるも、果たして乾きしや不明。朝甘薯蒸す。例に依り藪のみ食ふ。坊も藪を好む。午前中南部運動会。見物にミワさん坊を連れ、午前10時頃より正午を過ぐるまで居らる。まこと誌八、九月分昨日到着。本日木下、竹折両氏に贈る。藪の今回配給は、国東地方洪水にて、一日も早く倉庫より取出さねば、水に濡れて腐敗の恐れある為らし。而して潮水に漬かりし分は幾ら煮ても軟らかにならぬものらし。道理こそ堅硬をこぼし居たり。

昭和18年9月30日（木）

漸く冷気身に秘む。日中は猶夏の名残あるも、朝夕は寒さを覚ゆるに至る。冬襦衣着用。此日山本ヤス、函場より葉書五千請求あり。明一日に遣ることにして現金を返す。後刻之を預かることに依って、今日受入となることを知り、ミワさんに貰って来さす。影浦より印紙一千請求に対しても二百枚不足す。電報原書の調製及び月計を算入す。道子より十円送付越せり。巻柿代として、、、藪蒸して坊やに食べさす。夜、第一生命都留氏宅チブス予防注射。